

10 章 19,20 節 「わたしはあなたがたにねたみを引き起こすことになる、民ではない者たちのことで…わたしは…自分を現わした、わたしを尋ねなかった者たちに」

11 章 1 節 「それで今、私は言いますか、『神はご自分の民を退けてしまったのでは』と。決してそうではありません。それは、この私もイスラエル人だからです。アブラハムの子孫(種)であり、ベニヤミン族の者です」

11 章 2 節 「神は退けたわけではありません、前から知っているご自分の民を」

11 章 2b-5 節 「それとも、あなたがたは知らないのですか、聖書がエリヤにおいて何と言っているのかを。それは彼がイスラエルに対して神に訴えていることです。彼は言っています、『主よ、あなたの預言者たちを彼らは殺しました。また、あなたの祭壇を彼らは壊しました。ただ、この私だけが残されました。そして私のいのち(たましい)を求めています』と。

しかし、託宣は彼に何と言っているか、『わたしは残している、わたし自身のために、七千人の男たちを。彼らは、バアルに膝を屈めなかった者たちである』。ですから、同じように今この時にも、恵みの選びによって残された者たちが(います)」

11 章 6 節 「それが恵みによるのであれば、もはや行い(働き)に基づきはしません。それがもし恵みによるのでなければ、恵みとはならないからです」

11 章 7, 8 節 「では、どうなのでしょう。イスラエルは追い求めていたもの、それを獲得しませんでした。しかし、選ばれた者たちが、それを獲得したのです。そして残りの者たちは頑なにされたのです。それは記されているとおりです、『神は彼らに与えられた、鈍い霊と 見えない目と 聞けない耳とを、今日に至るまで』と」

11 章 9,10 節 「そしてダビデも言っています。『彼らの食卓が(彼らにとって)、罨となるように、落とし穴となるように、つまずきとなるように、報いとなるように。彼らの目が暗くされますように、見えないように。彼らの背がいつも曲げられますように』」

11 章 11,12 節 「それでは私は言います。彼らがつまずいたのは、倒れるためなのでしょう。決してそうではありません。かえって彼らの背きによって、救いが異邦人に及び、彼らにねたみを起こさせるためです。

しかし、彼らの背きが世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるというなら、何と偉大なことになるでしょう、彼らが満ちることは」

11 章 13-15 節 「そこで、あなたがた異邦人に対して私は言います。確かに実際、この私が異邦人たちの使徒である限りは、私の務めを栄光あるものとします。

もし、どうにかして私の肉(同胞)にねたみを起こさせて、彼らの幾人かでも救うこともあるならと。それは、もし彼らの拒絶が世界の和解となるのであれば、彼らの受容

は 死者の中からのいのち でなくて何でしょう」

<引用聖句>

(使徒 13:46) 「見なさい。私たちはこれから異邦人たちの方に向かいます」

(I 列王記 19:4) 「主(ヤハウェ)よ、もう十分です。私のいのちを取ってください」

(同 19:8) 「四十日四十夜歩いて、神の山ホレブに着いた」

(同 19:12) 「かすかな細い声(沈黙の声 a sound of sheer silence:NRS)があった」

(ローマ 9:3) 「もしできるなら、この私がキリストから引き離されて、のろわれた(アナテマ)者となることさえ願っています、私の兄弟たち、肉による同胞のためになら」

(イザヤ 6:8) 「私は主が言われる声を聞いた。『だれを、わたしは遣わそう』
私は言った。『ここに私がおります。私を遣わしてください』」

(イザヤ 6:9,10) 「すると主は言われた。『聞き続けよ(聞いて、聞け)。だが悟るな。見続けよ(見て、見よ)。だが知るな。この民の心を肥え鈍らせ、その耳を遠くし、その目を堅く閉させ。彼らとその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返って癒されることもないように』」

(詩篇 69:19,22,23,32) 「あなたは、私が受けている そしり、恥、侮辱をご存じます。私に敵対する者はみな、御前にいるのですから…彼らの前の食卓は罨となり、平和が落とし穴となりますように。彼らの目が暗くされ見えなくなり、腰がいつもよろけますように。あなたの憤りを彼らに注ぎ、燃える怒りで圧倒してください…悩んでいる人々は、これを見て、喜びます。神を尋ね求める人々よ。あなたがたの心は生き返ります」

(使徒の働き 13:23,33) 「神は約束にしたがって、このダビデの子孫から、イスラエルに救い主を送ってくださいました…神はイエスをよみがえらせ、彼らの子孫である私たちにその約束を成就してくださいました。詩篇の第二篇に、『あなたはわたしの子、わたしが今日、あなたを生んだ』と書かれているとおりです」

(使徒 1:6) 「イスラエルのために国を再興してくださるのは、この時なのでしょう」

(ルカ 15:29,30) 「ご覧ください、長年の間、私はあなたにお仕えし、あなたの戒めを破ったことは一度もありません。その私には、友だちと楽しむようにと、子やぎ一匹下さったこともありません。それなのに、遊女と一緒にあなたの財産を食いつぶした息子が帰って来ると、そんな息子のために肥えた子牛を屠られるとは」

「父は彼に言った。『子よ、おまえはいつも私と一緒にいる。私のものは全部おまえのものだ。だが、おまえの弟は死んでいたのに生き返り、いなくなったのに見つかったのだから、喜び祝うのは当然ではないか』」